

ケアネットせとうち通信

安心して暮らせる地域を目指して

瀬戸内市在宅医療・福祉・保健連携推進協議会(愛称:ケアネットせとうち) 新会長に竹内宣昭委員が就任されました

本協議会の発足当初から会長を務めていただいていた柴田浩会長が協議会委員を退任されました。長年にわたり瀬戸内市における地域包括ケアシステムの構築に多大なるご尽力を賜り誠にありがとうございました。

令和2年6月16日に開催された第1回協議会において新会長の選出を行い、竹内宣昭委員が新会長に就任されました。



竹内宣昭 会長

今年度のケアネットせとうち通信について(お知らせ)

「ケアネットせとうち通信」では、これまで、医療・介護・福祉の専門職の皆様向けの研修会などの情報提供を行ってきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた研修会や市民講座、せとうちカフェなどは開催しないこととなりました。今年度発行する通信は、各号でテーマを設け、コロナ禍にあっても各機関・団体の皆様が、それぞれに役割を果たすべく、日夜奮闘していらっしゃる様子をお届けします。皆様の励みとなれば幸いです。

第14号は **新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止** をテーマにお届けします。

新型コロナウイルス感染症対策について (邑久医師会)

なんか着けたくない、みんなでわいわいがやがやおしゃべりしたり、ご飯を食べたりしたい…でも「コロナ」が怖い、人の目が怖い…我慢の続く毎日です。そしてまもなくインフルエンザの流行期にも入ります。発熱が「インフルエンザ」によるものか「コロナ」によるものか(時には両方かかっているケースもある様ですが)その判別は困難です。

そこで厚労省はこれまでと少し方針を変えて(と思うのですが)一般開業医にも広く「コロナ」検査をするよう勧奨するようになり10月末までにその態勢を整える準備が始まっています。我々医師会メンバーも職員とともに、怖いけれども「コロナなんか負けるもんか」と覚悟を決めている所です。発熱患者さんを敬遠するのではなく、「コロナ」ではない事を祈りながら検査治療に当たらねばと思っています。患者さんと医療関係者、ともに最大限の気遣いのもと、この難局を乗り切りたいものです。

(邑久医師会 会長 竹内 宣昭)

今年春先から始まった「コロナ」騒動は、私達の日常生活に大きな変化をもたらし、日々の行動の中で様々な制限や心の抑圧をもたらし続けています。マスク

新型コロナウイルスの感染予防について (瀬戸内市健康づくり推進課)

市民の皆様、瀬戸内市在宅医療・福祉・保健連携推進協議会(ケアネットせとうち)の皆様には、感染症対策につきましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

岡山県内で初めて、新型コロナウイルスの感染者が確認されて9月22日で半年になります。4月に全国に緊急事態宣言が発出され、外出の自粛など感染拡大防止の取り組みが進められ、瀬戸内市におきましても、市主催の事業を中止や延期することになり、がん検診や乳幼児健康診査も延期しました。現在は、各種検診等を実施しています。

新型コロナウイルス感染症は、誰もが感染する可能性があり、長期的に感染防止に取り組んでいかなければなりません。新型コロナウイルス感染症だけでなく、季節性インフルエンザやノロウイルスなどの感染症予防のためにも、マスクの着用と手洗いの徹底、人と人との距離を保ち、3密(密閉、密集、密接)の回避をした「新しい生活様式」を引き続き、実践していくことが大切です。

これからも、国や県からの新型コロナウイルス感染症情報を踏まえ、感染予防・感染拡大防止の啓発用チラシ等の作成などに引き続き取り組み、より一層、関係機関の方々と相談支援の連携を図って参ります。

情報発信につきましては、広報せとうちや市ホームページ等で行いますので参考にいただければ幸いです。

発熱等の風邪症状があり医療機関を受診する場合、受診前に必ず電話でご相談ください。



新型コロナウイルスとの共存社会に向けて (瀬戸内市高齢者入所施設代表者会)

平素から高齢者施設へのご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

高齢者は抵抗力が低い為、新型コロナウイルスに感染すると重篤化する確率が高く、施設内でクラスターが発生するおそれもあります。高齢者施設職員は新型コロナウイルスを施設に持ち込まないよう、心身ともに疲弊しながらも感染予防に努めており、毎日の検温、マスク着用、手指消毒だけでなく、定期的な換気や消毒、3密を避けたケア、不慣れなオンライン面会などに日々取り組んでおります。

都市部と違い、岡山県は感染者数も少なく、陽性ともなると現在では誹謗中傷されているという声も聞きます。私たちの敵は、感染者ではありません。新型コロナウイルスです。誹謗中傷のない住みやすい地域にしていくことも、私たちの重要な役割であると感じております。

これからは、『感染予防の対応策』から、『感染者発症時の対応策』へも、取り組まなければなりません。

新型コロナウイルスとの共存の時代、まず一人ひとりが新型コロナウイルスの正しい理解をし、公私において『新しい生活様式』と、『誰もが安心して生活ができるまちづくり』に引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

(瀬戸内市高齢者入所施設代表者会 代表 三石哲也

社会福祉法人誠和 特別養護老人ホームあじさいのおか牛窓 施設長)



院内での感染拡大防止対策 (瀬戸内市民病院)

瀬戸内市民病院では、これから冬にかけてインフルエンザ、感染性胃腸炎の流行と同時に今年は新型コロナウイルス感染症にも十分注意する必要があります。院内感染対策委員会を中心に今から感染防止に努めています。

流行状況に合わせて入館者全員に検温を実施したり、入院患者さんへの感染防止のため面会禁止とし、全職員の健康チェックを毎日行っています。

当院では発熱や呼吸器症状のある患者さんの診察を行っていますが、院内での感染拡大防止のため患者さんひとりひとりにも協力していただき、新しい生活様式（3密を避ける）、マスクの着用、手指衛生などに気を付けることが重要となります。そして、発熱、呼吸器症状など心配な症状がある場合には、病院受診する前に一度電話でご相談いただければ、他の患者さんと診察時間、診察場所、待合をわけるなど病院として最大の感染対策をすることが出来ます。

また地域全体で予防していくためには他の医療機関、老人福祉施設をはじめ、保育園や学校といった施設との連携やサポートも重要となってきます。

何かありましたら、ご相談いただければと思います。

(瀬戸内市民病院 感染対策室 看護師 岡部恭子)



手作りマスクの販売を通じた取り組み (瀬戸内市地域自立支援協議会)

瀬戸内市地域自立支援協議会主催で、瀬戸内市役所等（ゆめトピア長船、長船支所、邑久本庁舎、牛窓支所、社会福祉協議会計5箇所）にて市内障害福祉サービス事業所に在籍されている障害のある方による手作りマスクを販売しました。（全5回）

新型コロナウイルス感染症の影響により、市内障害福祉サービス事業所での受託作業（箱折り等内職）や一般企業へ出向しての業務（清掃作業等）がなくなったため、作業工賃等の維持やマスク不足解消のため取り組みました。マスクは無地のものから、カラフルなものまで様々なタイプがあり、皆さん品定めをしながらお気に入りのものを見つけていました。



新型コロナウイルス感染症対策に関して、事業所のマニュアル作成などに悩んでいるとのお声を聴くことがあります。厚生労働省のホームページにも情報が掲載されていますのでご紹介します。

○社会福祉施設・事業所における新型インフルエンザ等発生時の業務継続ガイドラインなど
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000108629.html>

○介護事業所等向けの新型コロナウイルス感染症対策等まとめページ
(介護現場における感染対策の手引きなど)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/taisakumatome_13635.html

コロナに負けず、地域で大切な活動をこれからも (瀬戸内市地域包括支援センター)

市いきいき長寿課と地域包括支援センターでは、地域での介護予防活動として、体操を中心とした通いの場『はつらつ教室・OB会』の取り組みを進めています。

『誰もが歩いて集まれる場所に、目指せ100か所!』をスローガンに地域の皆さんに呼びかけ、令和元年度末時点でほぼ目標達成となる98か所のOB会が立ち上がっています。市内千数百人の方が、ほぼ毎週地域の集会所などに集まって楽しく体操や交流を行うことで、単に介護予防の効果だけでなく、一番身近な地域での見守りや支え合いの基盤が瀬戸内市全域で広がってきていると考えています。

しかしながら、この度の新型コロナウイルス感染症の脅威によって、様々な交流機会や普段の生活までもが大きな影響を受ける中、はつらつ教室・OB会も一時は全域で活動を休止していただくこととなり、毎週楽しみに参加されていた方も自宅で窮屈な思いをされたことと思います。ただ、休止期間中もそれぞれ自宅で取り組める体操の紹介や日々の健康維持のためのカレンダー形式チェックシートを配布するなどして体力維持や日常生活動作(ADL)低下予防に取り組んでいただきました。

その後、6月から感染予防対策をしっかりとっていただいたうえで順次再開しており、10月時点で91か所での開催となっています。参加されている皆さんからは『再開が待ち遠しかった』『みんなに会えてうれしい』といった声が多く聞かれ、改めて地域の大切な活動であることを認識しています。

再開前に
職員と一緒に
会場チェック



休止期間中の配布物
①セットちゃんの6セット体操(右)
②健康カレンダー-元気もりもりチェックシート(下)



各機関・団体で、コロナ禍においても支援を継続するため、知恵を出し合い、工夫して取り組んでおられる様子をご紹介しました。

寄稿いただいた皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご協力を賜りありがとうございました。

トータルサポートセンター(ケアネットせとうち事務局)のご案内

医療・福祉・保健等に関する総合的な相談を受け、多職種連携で支援を行います。

【相談対応職員】
保健師

【相談時間】
午前8時30分～午後5時15分
(土曜日・日曜日・祝日・年末年始を除く)

【所在地】
瀬戸内市邑久町山田庄845番地1
(瀬戸内市民病院1階 玄関南側)

【電話番号】(0869)22-3800

【ファックス番号】(0869)22-3801

